

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ボランティアの方との交流はあるが、事業所からの地域への積極的な参加が不足しており、利用者が住み慣れた地域に触れる機会が少なくなっている。	事業所が積極的に地域活動に参加する事で、地域と利用者が繋がりながら馴染みの暮らしを継続できるように努める。	一般的な年中行事に合わせた催事計画の他、地域での催しなども年間行事に盛り込み参加を計画していく。	12ヶ月
2	49	身体的な状況により遠出をする機会がなくなった利用者もおられ、全体的に外出する事が減っている。	利用者が思いに添った場所に行く事で意欲を持てたり、戸外に出て季節を感じながら気持ち良く過ごしたりして気分転換が図れるようにする。	個別の外出支援が出来るよう、ご本人の希望の把握が日常のケアの中でリサーチできるように努め、担当者、リーダーが計画していく。また年間の催事計画に沿って少人数ごとの外出の計画をする。	12ヶ月
3	10	家族会である敬老会が、一緒にアトラクションを楽しむだけに終わっており、せっかくご家族が一堂に会する場を効果的に活用できていなかった。	利用者、ご家族の忌憚のない意見、ご要望が引き出されるような機会の計画と、話しやすい場の雰囲気作りを行い、意見がサービスに反映できるように図る。	『家族会』実行委員会を作る。敬老会に固定せず、早い段階で計画を行う。他施設での取り組み事例なども参考にしご家族同士、職員とご家族など自由な意見交換の場を作る。	12ヶ月
4	40	献立に汁物が少なくなっており、食べやすさや見た目ご馳走感など、高齢者の食習慣に添った工夫が不足している。	利用者の嗜好に合わせ、一汁三菜の毎食ごとに楽しみを持って頂ける献立作りを図る。	利用者の嗜好の調査や食べやすさにも配慮した献立内容を給食委員会で検討し作っていく。	3ヶ月
5	35	いつ起こるか分からない災害に対し、近隣住民、近隣施設、地域、ご家族の協力が不可欠であり、そのための呼びかけが不足している。	非常災害対策として、近隣住民、施設、地域の連携や相互協力が図れるようにする。	運営推進会議委員、近隣住民、ご家族への防災避難訓練への参加を頂く。防災対策委員会にて相互協力についての検討会を行う。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。